

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服 装 造 形 論 I A	・衣服全般の基礎知識を習得する。(縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察) ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。	1・前期	60	2	○		○		○		
○			服 装 造 形 デザイン I A	・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。	1・前期	30	1		○	○		○		
○			服 装 造 形 パターン メーカー ング I A	・ドレーピングの基礎知識を習得する。(ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング) 1 基礎 I (一般知識・縫い方の基礎)	1・前期	30	1		○	○		○		
○			服 装 造 形 ソーイング I A	基礎縫いAミシン縫い・B手縫い 2 体型研究 身頃原型・スカート原型(1/4・実物作図)・トワル製作・試着補正・レポート 3 スカート I デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・前期	90	3		○	○		○		
○			服 装 造 形 論 I B	4 シャツブラウス I デザイン・パターン・実物製作・レポート 6 子供服 デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・後期	60	2	○		○		○		
○			服 装 造 形 デザイン I B	7 バザー作品 文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 8 スカート II デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・後期	90	3		○	○		○		
○			服 装 造 形 パターン メーカー ング I B	9 ジャケット I デザイン・パターン・実物製作・レポート 10 ワンピースドレス I デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・後期	90	3		○	○		○		
○			服 装 造 形 ソーイング I B	11 パンツ I デザイン・パターン・実物製作・レポート 12 ドレーピング基礎(文化ボディ) 胸ぐせダーツのバリエーション(アームホールダーツ)	1・後期	120	4		○	○		○		
○			量 産 技 術 概 論・実習	アパレル製品の生産について、関心を持たせることを目標とする。前期は、量産的手法に基づいたシャツの縫製実習を短期集中で行い、工業用ミシン、アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法の基礎を習得する。後期は講義において、実習での作業内容と通常授業における一品作りとの違いについて認識させる。	1・通年	30	1	○	△	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自由研究ⅠA	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会(展示会)を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・前期	30	1			○	○		○	
○			自由研究ⅠB	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会(展示会)を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・後	30	1			○	○		○	
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・通年	30	1	○			○		○	
○			ファッションデザイン画Ⅰ	ファッションデザイン画は、人体のプロポーションと衣服のバランスを把握し、デザインの構造を明確に描く事が出来るよう基礎技法から幅広い画材研究まで習得し、各自のデザインワークにつなげていく事を目標とする。	1・通年	60	2			○	○		○	
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	30	1			○	○			○
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・通年	60	2	○			○		○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服飾デザイン論Ⅰ	教育目標：服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定：色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やシルエットのとらえ方、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自製作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル(衣服)の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材(テキスタイルファブリック)を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ、理解を図る。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニク・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・通年	30	1			○	○		○		
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○			キャリア開発Ⅰ	・人材育成のための講義と進級に関する講義で構成する。 ・新しい環境の中で社会人と学生の違いを認識し、将来の進路を考えるきっかけを作る。また、コミュニケーション能力を高め、自分という存在について考え成長できる『人間力』の育成を目指す。 ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。	1・通年	30	1	○			○			○	
○			特別講義Ⅰ	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・通年	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル造形論Ⅰ	人体の構造や運動機能を視野に入れ、素材の特性を活かした作品を平面裁断・立体裁断のテクニックにより個々のデザインの発想力と表現力を身につける 1、立体裁断Ⅰ タイツスカート、セミフレアスカート又はフレアスカート ショルダーダーツ、ウエストダーツ、胸ぐせダーツバリエーション 2、シーズン表現Ⅰ 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート ＊一重アウターでのセットアップ 3、バザー作品 文化祭バザー作品、グループ製作 4、シーズン表現Ⅱ 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート ＊ウールを使用したセットアップ 5、立体裁断Ⅱブラウス 衿3種 7、修了製作 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート	2・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル造形演習デザインⅠA		2・前期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造形演習ドレーピングⅠA		2・前期	30	1		○		○		○		
○			アパレル造形演習実技ⅠA		2・前期	90	3			○	○		○		
○			アパレル造形演習デザインⅠB		2・後期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造形演習ドレーピングⅠB		2・後期	30	1		○		○		○		
○			アパレル造形演習実技ⅠB		2・後期	90	3			○	○		○		
○			マーチャンダイジング論Ⅰ	ファッションマーチャンダイジング（基礎）を理解し、デザイン発想力の育成・感性を具体的に表現する能力の育成する。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			生産管理概論	マーチャンダイジングにおいて重要な要素であるQ（品質）C（原価）D（納期）について、生産の観点からその認識を向上させることを目標とする。生産実務において情報伝達に用いられる「縫製仕様書」「加工・裁断・芯貼り指図書」を作成できる力を身につける。また生産現場である工場と円滑に業務を遂行することを目指し、製造現場での取り組みを知ること、企画で設定したQCDを実現するための基礎的な能力を養う。	2・前期	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ニットアパレル造形Ⅰ	ニットの基礎知識を習得し、アパレルにおけるニット製品の製作工程や技術を学ぶ。ニットに使用される素材・編み地について商品知識と共に学ぶ。	2・前期	30	1			○	○		○		
○			自由研究Ⅱa	科の特色の学科や特論で得た知識を活用し応用発展させる	2・通年	30	1			○	○		○		
○			自由研究Ⅱb		2・通年	30	1			○	○		○		
○			ファッションマーケティングⅠ	企業との連携によりアパレル業界におけるマーケティング業務の実務を講義と実習により指導し、ファッションマーケティングの基礎知識を習得させる「実学」を目指す。	2・通年	60	2	△		○	○			○	○
○			色彩計画Ⅰ	1年次『服飾デザイン論』で習得した色彩の基礎を発展的に学習する。配色やイメージ表現などの基本的な色彩スキルをトレーニングしたのち、コンセプト策定からプレゼンテーションまでの色彩計画の考え方を演習を通して学習する。	2・通年	60	2		○		○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅱ	幅広いデザインセンスと個性を兼ね備えたファッションデザイン画を作成する事を目標とする	2・通年	60	2			○	○		○		
○			アパレル素材論Ⅱ	1年次で習得した素材の知識を基に、風合いや色・柄、物理特性、機能や素材調達において必要な産地などをテーマに布地からの視点で繊維・糸・布・染色・加工に着目し素材の理解を深めることを教育目標とする。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			アパレル品質論	アパレル製品の企画、設計、生産、流通における品質管理の知識を習得させるために以下の①～③について講義、演習、実習、見学を通して理解させる。 ①素材の特性を把握する為の物性試験や製品の実用性能を管理するための各種試験方法、評価法、基準値 ②アパレル製品の取り扱い ③アパレル製品に関する法規制（表示関連、安全性関連）や規格	2・後期	30	1	○	△	△	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コーディネート論	ファッションコーディネートに必要な基本知識と様々なコーディネートテクニックを習得することを目標とし時代への適応力、客観的に捉えたファッションコーディネートの提案能力を養う。	2・後期	30	1	○		○		○		
○			デザイン文化	近代デザインの歴史と理念を踏まえ、現在のエディトリアル、グラフィック、ショップ空間、衣服などにおけるデザインの意味と役割について具体的に考察する。また、芸術、建築、写真、映画、音楽、広告などファッションに隣接する文化領域について学び、その関連性を知ること、ファッション文化への理解を深め	2・通年	60	2	○		○			○	
○			グラフィックワークⅠ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身につけると同時に、各自の企画デザイン力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。デジタルファッション画、イメージ・ビジュアル、ロゴデザイン等の製作を通してグラフィックソフトの基礎技法習得を目指す。	2・通年	60	2			○	○			○
○			キャリア開発Ⅱ	学生が就職を志望する先に内定するために必要な「就職力」を講義＋実習を通して身につけさせる 職業観・言葉遣い・電話・Eメール・自己分析・履歴書・エントリーシート・面接・グループディスカッション 作品プレゼンテーション	2・後期	30	1	△		○	○			○
○			特別講義ⅡA	アパレル産業の現状を先輩の実体験からのアドバイス、そして科の特色に沿った知識としてレギュラー授業に加えたい内容の講義・実習	2・前期	30	1	○		△	○			○
○			特別講義ⅡB		2・後期	30	1	○		△	○			○
○			校外研修Ⅱ	日本の伝統文化古都（京都、和歌山）に赴き、仏教美術・仏像建造物・庭園などの美に触れる。工場見学・関西の市場調査	2・後期	30	1			○		○	○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル造形論Ⅱ	各自コンセプトに基づいたクリエイション性の高いデザインの表現力を向上させる。 1、プライベートブランドⅠ（春夏アイテム 一重ジャケットとボトム） デザイン・パターン・実物製作・プレゼンテーション	3・通年	60	2	○		○		○		
○			アパレル造形演習デザインⅡA	2、バザー作品 文化祭バザー作品 デザインから販売まで ※グループ製作 3、プライベートブランドⅡ（秋冬アイテム） デザイン・パターン・実物製作・プレゼンテーション	3・前期	60	2		○	○		○		
○			アパレル造形演習実技ⅡA	4、立体裁断 3面構成のジャケット 4面構成のジャケット ラグランスリーブコート ※文化ヌードボディ使用	3・前期	90	3		○	○		○		
○			アパレル造形演習デザインⅡB		3・後期	60	2		○	○		○		
○			アパレル造形演習実技ⅡB		3・後期	90	3		○	○		○		
○			マーチャンダイジング論Ⅱ	1 アパレル製造業のマーチャンダイジング業務について指導を行い、社会に適合したマーチャンダイザー、デザイナーを目指す学生の為の実務教育を行う 2 アパレルマーチャンダイジングの発想法、手法、マネジメント、プレゼンテーションについて体系的かつ具体的な実践学習によるスキル習得 3 前期には個々で既存ブランドを設定。リサーチによりコンセプト&商品計画を組み立て、そのブランドの具体的な企画を立てる事により、ブランドマーチャンダイジングの基礎を習得。アパレルビジネスの基礎能力を身につける 4 後期にはグループにて仮想設定によるブランディングの過程を実践。グループワークでブランド設定、ブランドのコンセプト～ポログラフィックMDの基本構想を計画。それにもとづいたS/S商品企画～デザインを行い、造形授業と連動しサンプル製作する。パワーポイントによるプレゼンテーションを行う事によりリサーチ	3・通年	60	2	○		○			○	
○			マーチャンダイジング演習企画		3・通年	90	3		○	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生産企画	アパレル産業の生産プロセスの内、メーカーにおける生産関連業務の専門知識を習得することを目的とする。授業内容はアパレル生産担当者の業務範囲を業界関連図から読み解き、それぞれの分野で発生する各種管理活動について品質(Q)・原価(C)・納期(D)それぞれの観点から体系的に学習する。海外生産の拡大から多様化する生産の現状を理解し、今後のアパレル生産の行方を考慮の上、各自でアパレル製品の生産企画を立案し発表する。	3・通年	60	2	○		○		○		
○			ニットアパレル造形Ⅱ	ニットの基礎知識を習得し、アパレルにおけるニット製品の製作工程や技術、ニットに使用される素材・編み地について商品知識と共に学ぶ。ニットアパレル造形Ⅰを基礎とし、家庭用手編み機、工業用手横機を使用してニット商品のデザイン発想、ニット商品の仕様書などを学ぶ。	3・通年	60	2			○	○		○	
○			アパレル造形演習カット&ソー	丸編みカットソーの縫製の基礎的知識と応用、美しいシルエットを作る立体パターンの理解と企業パターンの実践的技術を修得する。	3・通年	60	2		○	○			○	○
○			テキスタイル造形演習	前期：「手織り」を通じて、布帛の構造や特徴を理解することで、アパレルデザインにおけるテキスタイルの可能性を学ぶ。 後期：テキスタイルデザインにおける先染め、後染め、染色仕上げ加工の技法の理解と習得。	3・通年	60	2		○	○				○
○			ファッションマーケティングⅡ	企業との連携によりアパレル業界におけるマーケティング業務の実務を講義と実習により指導し、ファッションマーケティングの基礎知識を習得させる「実学」を目指す。	3・通年	60	2	△		○	○			○
○			ビジュアルマーチャンダイジング	ビジュアルマーチャンダイジングの基礎知識と店舗、売場に必要各ディスプレイテクニックを学び、販売職等の実践に役立てる。	3・前期	30	1	△		○	○			○
○			セールスワーク	販売員の重要性とその基本業務を理解し、ビジネスマナーを習得する。	3・後期	30	1	△		○	○			○

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	ファッションデザイン画Ⅲ	アパレルデザインの現場で求められる業務内容を課題内容に入れプロへの準備段階と考える。作品レベルでは新しい企画提案としてテーマ、商品のコンセプト立案からデザイン画、アイテム図を技術指導のもとファイルとしてまとめる事を目標とする。	3・通年	30	1			○	○		○	
○			アパレル素材企画	アパレル業界ですぐに役立つ、実践的で総合的な素材知識の習得を目指す。流通の仕組み、素材コストの把握など、素材業界とアパレル業界との関わり合いを理解し、基礎知識の確認に加え、最新素材への見聞を広め、材料としての素材を理解した優秀なマーチャンダイザーの育成を目指す。	3・前期	30	1	○			○			○
○			グラフィックワークⅡ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身に着けると同時に、各自の企画デザイン力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。ファッショングラフィックの制作を通してブランディングの	3・通年	60	2		△	○	○			○
○			特別講義ⅢA	レギュラー授業には含まれない関連分野の専門知識を習得する。	3・前期	30	1	○			○			○
○			特別講義ⅢB		3・後期	30	1	○			○			○
		○	コラボレーションc	各自コンセプトに基づいたクリエイション性の高いデザインの表現力を向上させる。	3・通年	30	1			○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授 業 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業研究・創作	・マーチャンダイジング計画（ブランド設定からプレゼンテーションまで） ・ブランドのパイロット商品の開発（デザイン開発及び製品製作）	3・後期	120	4			○	○				
学年合計						21科目			1140単位時間（38単位）						
合計						72科目			3390単位時間（113単位）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること		1 学年の学期区分	前期・後期
		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。